

研究と子育てのバランス

私は現在、日本学術振興会の特別研究員として「JAXA相模原キャンパス」内で研究を続けています。専門分野は惑星探査ミッションの「軌道設計」で、探査計画を創るとき最初にする仕事です。いつ打ち上げるか、どのロケットを想定するか、エンジンは何をを使うか、往復探査の場合どのくらい目標天体に滞在するか、メリット・デメリットなどを総合的に判断して最善だと考えられる探査機の「道すじ」となる軌道を設計していきます。正解というものではなく、設計者の数だけ軌道計画が存在します。

実は、人生も軌道設計に似ていると思います。私が一番悩んだのは出産時期でした。今の日本では、私のような任期付き

の研究者はたくさんいます。職場を転々としながら、自分の分野で正規就職の募集があれば応募します。正規就職が先か？ 出産が先か？ 出産すると、期限が切れた後に仕事がなくなる可能性もあります。私の場合は、人生の中で出産できる時期の方が制限があると判断し、正規就職するより先に二人出産しました。待機児童の多い中、幸いにも二人ともゼロ歳から保育園に預けることができ、産休明けから仕事に復帰しています。

少し前までは仕事と子育ての「両立」という言葉が良く使われましたが、両方を100%こなすというのはまず無理です。私は「バランス」という言葉の方がしっくりすると思っています。軌道設計のよう

森本 睦子 ● JAXA/月惑星探査プログラムグループ (日本学術振興会) 特別研究員



に、メリットだけでなくデメリットも許容するのです。子どもは日々成長し、環境条件も変わるので、仕事と子育てのバランスをどう取るかというのは、いつまでたっても一つの答えに行きつきません。その時その時の最善だと思う事をしようと思がけています。大学生のみなさんは人生で一番選択肢の多い時期でしょう。悩むのは選択肢が多い証拠だと思って、ご自身だけの軌道を設計してください。

女性研究者支援センターの相談窓口

女性研究者支援センターでは、大阪府立大学の女性教職員および女子学生を対象に、2つの相談窓口を開設しています。

支援センター相談

研究を続けていく上で困ったこと、悩んでいることについて、支援センターのコーディネーターが、あなたに必要な支援や情報を一緒にお探します。

女性の健康相談

職場・研究環境と健康に関わる問題について、保健師・助産師がサポートします。

11月から実施 中百舌鳥キャンパス いずれも9:00~13:00

- 第1火曜日 工学部・研究科
- 第2火曜日 生命環境科学部・研究科、21世紀科学研究機構
- 第3火曜日 理学部・理学系研究科、総合教育研究機構
- 第4火曜日 経済学部・研究科、人間社会学部・研究科

12月から実施 羽曳野キャンパス 9:30~13:30

- 第1月曜日 看護学部・研究科、総合リハビリテーション学部・研究科

12月から実施 りんくうキャンパス 9:30~13:30

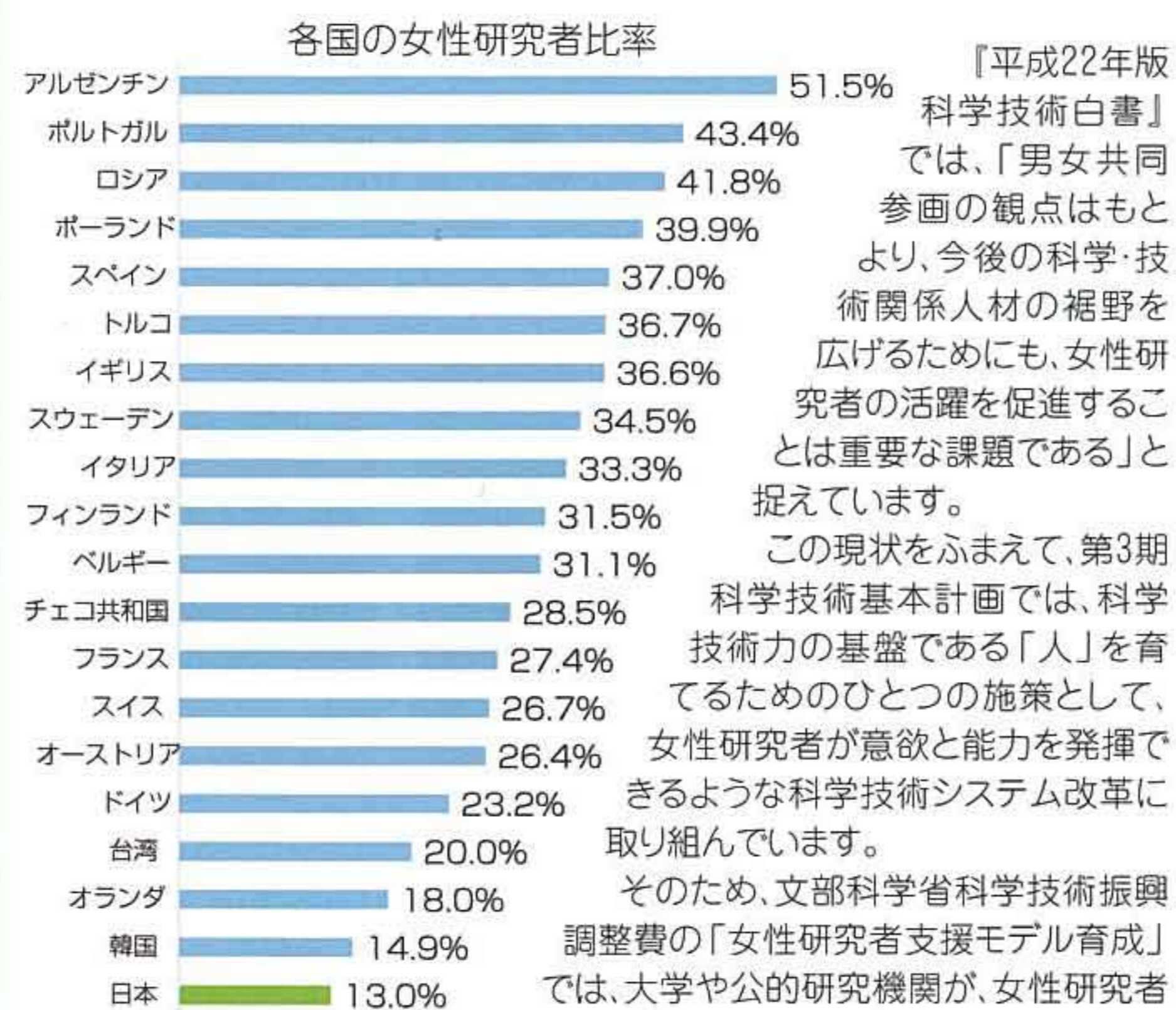
- 第2月曜日 生命環境科学部・研究科 (獣医)

※上記以外の部署の方も、随時センターへお問い合わせください。

「支援センター相談」と、「女性の健康相談」の個別相談には、予約が必要です。まずは、お電話でお問い合わせ・ご予約ください。

- 相談専用ダイヤル (072) 254-6147 (内線:2643)
- 受付時間 (月)~(金) 10:00~17:00 (祝日休み)

数字で見る! 男女共同参画 「13.0%」



【「科学技術指標2010」(p.60)より作成】

『平成22年版科学技術白書』では、「男女共同参画の観点のもとより、今後の科学・技術関係人材の裾野を広げるためにも、女性研究者の活躍を促進することは重要な課題である」と捉えています。この現状をふまえて、第3期科学技術基本計画では、科学技術力の基盤である「人」を育てるためのひとつの施策として、女性研究者が意欲と能力を発揮できるような科学技術システム改革に取り組んでいます。そのため、文部科学省科学技術振興調整費の「女性研究者支援モデル育成」では、大学や公的研究機関が、女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、研究活動を継続するための支援を行う仕組みを構築する際の模範となる優れた取り組みを支援しているのです。

公立大学法人 大阪府立大学 女性研究者支援センター

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1 (中百舌鳥キャンパス A1棟2F)
TEL・FAX (072) 254-9856 (内線2758)
E-mail w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL http://www.opu-genki.ne.jp



元気! 生き生き 女性研究者・公立大学モデル

NEWS LETTER No.1 2010.11

文部科学省科学技術振興調整費 女性研究者支援モデル育成事業
公立大学法人 大阪府立大学 女性研究者支援センター

世界に翔き、地域の信頼を得るために

公立大学法人 大阪府立大学理事長 奥野 武俊

本学は、これまで文部科学省の教育推進プログラム(いわゆるGP)、科学技術振興調整費によるプログラム、環境省の人材育成プログラムなど数多く採択された実績をもち、人材養成に積極的に取り組んでいます。このたび、文部科学省科学技術調整費「女性研究者支援システム改革プログラム」に、本学の「元気! 生き生き 女性研究者・公立大学モデル」が採択され、さらに発展する機会を得ました。

このプログラムは、従来から女性の学生や研究者が比較的少ない理系分野における女性支援を進めることによって、理系分野のみならず他の分野においても、また男性も、生き生きと研究、勉学、仕事に取り組める環境にできると考え、女性研究者を支援する体制を具体的に作ることで、大学全体の活性化を図り、喜んで学び、働き、生きがいを見つけられる大学を目指したいと思います。それが、本学の掲げる基本理念「高度研究型大学」です。

女性研究者を支援する国の政策は、平成18年度に開始され、この5年間に、国立大学を中心とする50以上の大学・研

究機関が支援対象に選ばれてきました。本学は公立総合大学としては初めて、そして唯一のプログラム採択校となっています。プログラム内容の概要については他の記事に譲りますが、今回の採択にあたって申請内容に高い評価をいただいております。成果を出せるように努力してまいります。

このプログラムを推進するために、来年4月には、中百舌鳥キャンパスに大学の自主経費で保育施設を開く予定です。また、大阪府や堺市との連携、および府内・周辺地域の企業との連携を強く進めることにしています。本事業を契機として、公立大学にふさわしく世界に翔き、それによって地域の信頼を得たいと願っています。それが本学の目指すところ。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



「元気! 生き生き 女性研究者・公立大学モデル」の願い

女性研究者支援センター長 田間 泰子(人間社会学部教授)

私が、女性学研究センター主任・伊田久美子教授とともに、女性研究者支援を奥野理事長に提案したのは昨年末でした。大変喜んでいただき、申請にあたっては学内で多くの方々に協力いただいて今春の採択に到りました。採択後、さらに多くの学内外の方々に協力いただき、すでに半年が経

とうとしています。理系女性研究者の方々には研究支援員の配置や懇話会の組織化、理系女子学生さんたちには「サイエンスカフェ」や事業説明を行っています。彼女たちがロールモデルとなるオープンキャンパス「理系女子コーナー」や「子どもサイエンスキャンパス」も



実施し、全学的には、セミナー、相談窓口やロールモデルバンクの開設等を行いました。今年度後半から来年度には、支援のいっそうの拡充を計画しています。

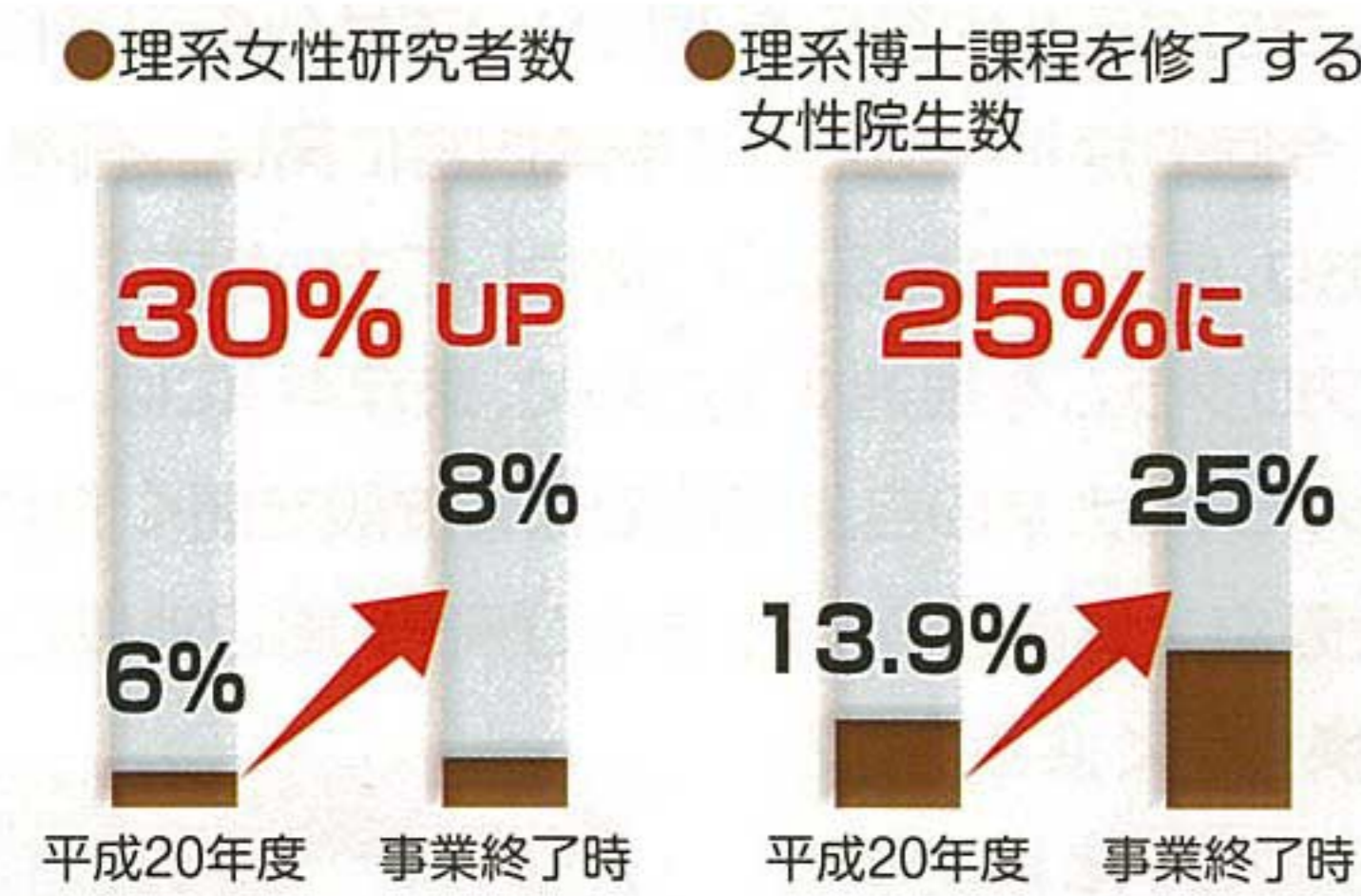
文部科学省によれば、このプログラムには目的が2つあります。ひとつは女性の活躍が特に困難な理系分野(工学・理学・農学系)において、女性研究者を支援し、増加と活躍を促進すること。二つめは、男女がともに活躍できるよう、大学の環境整備と意識改革をおこなうことです。さらに本学には、公立大学として行政・企業との連携という期待もかけられています。このプログラムの実施によって、女性研究者を含め、大阪府立大学と地域のみならず、生き生きと過ごせる社会となるよう願っています。その実現にはまだ遠い道のりです。皆さまのご理解とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

元気! 生き生き 女性研究者・公立大学モデル

プログラムの目的

理系女性研究者の増加

- 事業終了までの3年間で理系女性研究者数を現在の30%アップする。
- 理系博士課程を修了する院生の女性比率を25%まで引き上げる。



環境整備

- 相談窓口・メンター制度・保育室を開設する。
- 出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のために研究支援員を配置する。

地域貢献

- ロールモデル・バンクの構築と活用により地域に貢献する。

大阪府立大学では、平成22年度から「元気! 生き生き女性研究者・公立大学モデル」事業が始まりました。その概要と、これまでの実績をお知らせします。

組織・実施体制

外部評価委員会
(学外の有識者)

女性研究者支援システム
改革ステアリング委員会
(理事長・理事・部局長)

運営委員会
・各学部・研究科
の教員
・人事担当職員

学内各組織と連携
・学部・研究科
・各プロジェクトなど
・事務部門・同窓会

女性研究者支援センター



女性研究者支援のための4つの柱を掲げて、事業を行っています。

1 支援のための環境整備

推進体制を整えるとともに、女性研究者への直接支援などを行っています。

- 面接でのニーズ調査を、女性研究者17名に実施
- 研究支援員配置…今年度6名の研究者へ配置を予定
- 保育施設建設
- 女性の健康相談窓口を11月に開設
- 支援センター相談窓口を10月に開設
- メンター制度の導入 など



2 全学的意識改革

女性研究者が研究を続けていくことへの理解を進めます。

- シンポジウムやセミナーの開催
・女性学連続講演会(7/24, 38名参加)
・キックオフシンポジウムの開催(11/14)
- 理系の学部・研究科のオリエンテーション、授業に出向いての事業説明(7/23, 10/1~26, 計13回)
- 大阪府男女共同参画審議会での事業説明(9/27)
- 女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウムへの参加(10/5・6, 京都大にて)
- 男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加(10/7, 埼玉県 理化学研究所【和光研究所】にて) など

3 キャリアパスの構築と裾野拡大

女性が研究者として活躍するキャリアパスを構築すると共に、理系を志す女性の数を増やします。

- サイエンス・カフェの実施
- ロールモデル招聘セミナーの実施
- 国際学会報告のためのインセンティブ
- オープンキャンパス「理系女子コーナー」
- 子どもサイエンスキャンパスの実施
- ロールモデルバンクの構築 など

サイエンスカフェ



CAFE・DÉ・VITA
10月19日 10名参加
(りんくうキャンパス)



サイエンス・カフェ 6月30日 17名参加
(中百舌鳥キャンパス)

オープンキャンパス「理系女子コーナー」



8月7・8日 130名参加
(中百舌鳥キャンパス)

ロールモデル招聘セミナー「はやぶさ」講演会



サイエンス・カフェ 7月2日 5名参加
(中百舌鳥キャンパス)



7月24日 140名参加

4 サポート基盤の整備

上記の事業を進めていくため、学内の各部局との連携・協力体制を強化します。また、公立大学であることを活かして、大阪府や堺市をはじめとする地域との連携を深め、地域貢献を図っていきます。

大阪府立大学内に 保育園がオープンします!

平成23年4月、中百舌鳥キャンパスに保育園がオープンします。運営は、堺市で認可保育園を運営している、社会福祉法人コスモスに委託します。少人数であることを活かして、親が安心して預けられ、子どもも安心して過ごせる、温かい家庭的な保育園を目指しています。子どもたちが、キャンパスの中をお散歩する姿を見られるかもしれませんよ。



保育室

- 設置場所 中百舌鳥キャンパス
健康管理センター棟(新築予定)内
- 保育定員 10名(一時保育は、通常保育の定員に空きがある場合に、定員までの範囲内で実施)
- 保育対象 大阪府立大学教職員など(学生も可)が養育する、0歳(生後57日)から小学校就学前までの乳幼児